

2023年5月11日

各 位

ENEOS株式会社

米国大型森林ファンドへの出資について

ENEOS株式会社（社長：齊藤 猛、以下、「ENEOS」）は、ENEOSグループの米国法人を通して、住友林業グループが米国にて組成・運営するEastwood Climate Smart Forestry Fund I（以下、「本ファンド」）へ出資することを決定しましたので、お知らせいたします。

本ファンドは、米国をはじめ海外における森林経営の豊富な知見をもつ森林経営のトップランナーである住友林業株式会社（以下、「住友林業」）の傘下で米国の森林アセットマネジメント事業会社Eastwood Forests, LLC（以下、「EF社」）が設立する大型森林ファンドです。北米を中心に森林を購入し、木材販売等から得る利益や森林が生み出すカーボンクレジットを出資者へ還元して社会全体のカーボンオフセットに貢献します。本ファンドは森林が持つ炭素吸収・固定機能や生物多様性、水資源の保護等の多面的機能が十分発揮できるよう持続可能な森林経営を実践します。

ENEOSグループは、Scope 1、2※1のCO₂排出量を2030年度までに2013年度対比46%削減、そして2040年度までにカーボンニュートラル実現という目標を設定しております。目標達成に向け、当社の温室効果ガス排出抑制、CCS（CO₂の回収・貯留）、CO₂除去（森林吸収等）に広く取り組んでおり、本ファンドについてもカーボンニュートラル実現に向けた取組の足掛かりになると判断しました。

現時点で本ファンドへの参画を表明しているのはENEOSの他、芙蓉総合リース株式会社、ユニ・チャーム株式会社の計3社で、6月の設立に向けて複数の企業が検討しています。なお、詳細については本ファンド設立時に公表いたします。

今後も当社はカーボンニュートラル社会の実現に向け、CO₂の自然吸収増加に向けた取り組みを推進することで、「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」との両立に向けて挑戦します。

以上

- ※1 Scope 1 : 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出 (燃料の燃焼、工業プロセス)
Scope 2 : 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出